

★マリガヤハウス便り★ ★河野 尚子★

皆様、こんにちは。2012年も残り数か月になりました。日本は長袖の季節になり、衣替えの時期でしょうか。こちらフィリピンも朝晩涼しくなり、雨の日は何か羽織るものが無いと風邪をひきそうです。台風の次の日に体調不良で学校や仕事を休むフィリピン人は意外と多いんです。さて、2012年10月31日から11月4日まで、フィリピンはお休みになります。



11月1日は諸聖人の日、2日は死者の日になっていて、フィリピン人はご先祖様のお墓のお参りを兼ねて、家族や親戚たちとのリユニオンをお墓で開きます。パラソルやテントが墓地全体に設置され、カラオケ大会なんかも始まります。いつもは安らかに眠られているご先祖様達も、この時期は家族達と賑やかな時間を過ごされているのでしょう。この連休が終わると、フィリピンは本格的なクリスマスシーズンに入ります。クリスマスパーティで大人も子ども達も大忙しになります。



【JFCのための「キャリアプランニング」ワークショップ開催】



8月からマリガヤハウスでインターン活動をしてきていたアイセックメンバー達が母子のために、2012年9月16日(日)に「キャリアプランニング」のワークショップを開催しました。そのワークショップについて以下にご報告したいと思います。子ども達は何かしら夢を持っていますが、その夢に近づくための方法を知りません。母親や保護者達も日々の生活が精一杯で、子ども達と将来の夢について話したりする時間もなかなか取れない状況です。このアクティビティは、そんな彼らにとって、とても

有意義なものになったと思います。

当日は、JFCの子どもたちが7人。JFCの保護者が6人。インターン生が6人。Maligaya houseで日本語教室の教師を行っている野口さんの合計20人に参加して頂くことが出来ました。

今回のワークショップの目的としては、「JFCのモチベーションの向上」を主な目的と位置づけました。JFC達を支援するには、金銭面での支援だけではなく、精神面でのサポートも必要です。彼らの生活を改善するためには、彼ら自身のキャリアプランを思考してもらい、持続的な将来に対する関心と呼び寄せ、JFCたちへモチベーションを与えることが必要であると考えるこのワークショップを行いました。今までのインターン生の行ってきたワークショップを踏まえて、「夢を持つということはJFC自身できていると考えられましたが、彼らの抱いた「夢」をより多くの頻度で、



思考して反省を繰り返すことが必要であると考えました。今回は、夢を考えるワークを踏まえ、イベントを踏まえて彼らが実行してきたことなどを反省して振り返る機会を設けました。

流れとしては、まず初めに、自分たちが夢を実現するために行ってきたことを思考してもらい、反省した内容を踏まえて今後やるべきこと、目標を再び思考してもらうため、10年後、5年後、3年後、1年後、明日からというように、今後夢を叶えるための計画表作りを行いました。最後は、宣言大会ということで、各人の夢を今後の夢を叶えるための計画を発表してもらおうという流れを作りました。

行った感想としては、子どもたちはとても大きな夢をもっていると感じました。パイロットになりたい。医者になりたい。先生になりたい。しかし、夢を実現するための具体的な今後のキャリアプランが描けていませんでした。子どもと親1組につき、インターン生が1人ついて、彼らのキャリアプランに対してアドバイスを加えました。何年後か、夢を叶えるためには10年後、5年後、3年後、1年後そして明日何を



するのか、どうなっていたいのか。また、子どもの夢を叶えるために親自身にもどのように子供たちをサポートしていくかというワークを行ってもらいました。今回JFCとして参加した大学で看護の勉強をしているシャーメイと高校生のマルビンの例を挙げたいと思います。

シャーメイの夢は「医者になり、自分の家の近くに小さな診療所をもつ」ことでした。「10年後には医者として病気の人々を助

けて働く傍ら、医者になるための勉強をする。3年後には看護師として働き、来年は看護師になるための試験に合格する。そして明日は勉強するというプランでした。夢を叶えるため毎日やることとしては、月曜日から土曜日までは授業にしっかりでて、土曜日の午後は日本語を勉強する」ということです。

また、マルビン君の場合は「将来の夢はパイロットになって世界中を旅行して日本へ行き成功者になる」ということでした。「10年後にはパイロットの仕事を探し家族を養うためにお金を貯める。5年後にはパイロットになるための試験に合格する。3年後は、夢を叶えるため一生懸命勉強する。来年は一生懸命勉強して優秀生になる。そのため明日は8時に起きてきちんと学校へ行くこと。毎日朝早く起きて予習をする。学校で現在の世界情勢について学ぶ。学校から帰ってから復習をきちんとする。」とのことでした。彼らのそれぞれの宣言大会では、恥ずかしながらしっかりと自分の夢のキャリアプランを発表してくれました。(文責:マリガヤハウスインターン 鬼頭ゆかり、河野尚子)



マリガヤハウスの主な活動

2011年9月

- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。アイセックインターン生によるJFC母子達のワークショップとミニスポーツ大会を実施。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 2012年マリガヤハウス理事会を開催。



2011年10月

- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 2012年10月JFCネットワーク東京事務所理事会にスカイプを通して参加。

Happy Holidays to you!



パグ アサ
PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告
パグアサー 夢・希望
2012年12月号

JFC 母子ためのワークショップ&ミニミニスポーツ大会

2012年10月16日にJFC奨学生母子達のための、日本とフィリピンについての違いを説明するオリエンテーションとミニミニスポーツ大会を開催しました。

日本とフィリピンの文化的な相違について

日本とフィリピンの文化的な相違について説明しました。具体的なトピックとしては、日本人特有の時間に正確な面の理解、宗教的な相違、日本の気候について、またおまけのトピックとして日本の食文化と僕らの日本のお勧めの場所について説明しました。

時間に対する正確さのトピックでは7:00という待ち合わせ時間に対して何時に到着すればよいかというごく簡単なクイズを行った後に、正確な例として日本の電車について時刻表



と動画を用いて紹介した。電車は日本において、特に都市部において生活する際には不可欠な交通手段となるため、乗り方などを紹介してもよかったかもしれません。

宗教的な相違についてのトピックではフィリピンでは90パーセント以上がキリスト教を信じているのに対し、日本では特定の神を信じ、日常的に礼拝している人はわずかだという調査結果を元にクイズを行った。この「75パーセントの日本人は特定の神を信じていない。」という結果はやはり強く印象に残ったようでワークショップのアンケートでもこの事実について答えた人が多かったです。日本の季節の行事も興味を示した人が多かったように思います。お盆、節分、七夕について扱った。今回は時間がなかったため3つの行事紹介で終わってしまったが、1月から12月までの代表的な行事を順番に紹介していても面白いと思いました。



日本の気候についてのトピックでは日本の年間平均気温についてのクイズを行い、その変化を実際に東京タワーの写真を用いて紹介した。このトピックは時間の関係で内容が薄くなってしまったため、実際の気候の紹介として沖縄の写真と北海道の写真を用いて現地の文化の紹介をするのもわかりやすかったかと思います。

おまけの文化紹介としての食文化のトピックではまず日本の伝統的な所謂日本料理につ

いて写真を見せて軽く名前を当ててもらおうクイズを行った後に、外来食も日本ではとても人気であることを説明しました。このトピックで伝えたかったことは外来食が日本にはとても浸透していることなので、そのことをもっと強調した発表にすべきだったと考えました。しかし他国の食が入り乱れていることは日本とフィリピンでの共通点だと後に気づきました。

最後にお勧めの日本の場所について紹介した。アメ横を紹介したのだが、紹介した理由は、雰囲気はフィリピンに似ていると感じたからです。他にも日本らしい場所を紹介すればよかったと思いますが、そういう所謂名所は市販のガイドブックの類を見てもらえればよいと思ったのでアメ横を紹介しました。よりわかりやすく紹介するために自分で写真などを撮ってくればよかったと思います。

(文責:白井慎一郎、河野尚子)

ミニニスポーツ大会について



ワークショップ後、JFC 同士のコミュニティー意識の向上・親子の連帯感を高めるという目的で、ミニニスポーツ大会をマリガヤハウスで開催しました。参加者はJFC、お母さん、日本語教室ボランティアの野口さん、クリスティンさんを合わせて23人。インターン生も参加しました。種目は大縄跳び、綱引き、ドッジボールの三つです。

大縄跳びは1チーム5人ずつに分かれ4チーム作り、それぞれのチーム5分間の練習を行った後に3分間で合計何回跳べるかを競いました。優勝チームは年上のJFCたちと野口さんで編成されたDチーム。50回以上跳ぶことができました。綱引きはセンターラインから綱の中心が1メートルほど離れた線を先に超えたチームが勝ちというルール。作戦会議時間を設けるなどして白熱しました。一回戦A対Bの勝者BとC対Dの勝者Dが決勝で戦うトーナメント。敗者同士のゲームもやりたい、優勝はAチームでした。ドッジボールも綱引きと同じ組み合わせのトーナメント。再びBとDの決勝戦。再び優勝はAチーム。親子で同じチームになって行ったことで親子一緒になって行うという連帯感が生まれたと思います。また、チーム制にすることでJFC同士でも連帯感が生まれ、みな楽しい時間を過ごすことが出来ました。

JFC 母子達はとても盛り上がっていました。問題はチーム分けの時点で明らかな戦力差ができてしまったことかもしれません。このようなイベントが直接的な支援には関係しませんが、このようなスポーツイベントを行うことでJFCの間の距離が近づき、マリガヤハウス外でもいつも連絡を取り合うような関係になるきっかけになってくれればと感じました。JFCの中にも境遇の違いはあるにしろ、JFCならではの大きなことを経験してきたことの中には共通するものがありますし、困難に直面した際に似たような境遇の仲間がいたほうが情報共有なども可能だし乗り越えやすいのではと思いました。(文責:鬼頭ゆかり、河野尚子)

